

かね国通信

第13号
(特集号)

編集・発行
北海道議会議員 包國 嘉介
東区北8条東16丁目1-23
電話・FAX 011-743-3314

全日空が丘珠路線を廃止し、新千歳へ集約する方針を発表しましたが、私たち東区民にとっても唐突な話であり、地元への説明をしっかりと求めると共に、全日空が主張する移転理由の一つひとつについて、きちんとした検証を行うことが重要であると考えています。

今回は、丘珠空港の路線を維持するために道・札幌市・地元としてどのような対応が必要か皆様にも考えていただく材料として、先日の道議会予算特別委員会での質疑内容(抜粋)を掲載いたします。

いままでもなく丘珠空港は、道内航空路線の中核であり、年間37万人前後の利用者があり、地域まちづくりの中心的施設でもありません。これが廃止されれば、バス路線の廃止や統合などの区民生活を直撃する大きな問題があり、私は、**空港路線維持を前提**とした話し合い、対応が必要であることを訴えています。

予算特別委員会での質疑から (抜粋)

先にANAが丘珠空港からの撤退方針を表明したが、その理由の中で最も大きなものは何か。

全日空からは、集約化を検討する最も大きな理由として、1500mという滑走路の長さなど、丘珠空港が抱える制約を背景とした現行機材の後継機の問題が挙げられている。

かつてジェット化を検討した際には、最終的に国の判断もあつて断念したが、今回の問題について国にはどのような働きかけを行つているのか。

丘珠空港路線問題特集

その具体的な内容としては、丘珠空港路線で現在使用している機材について、更新を検討すべき時期にある中、現行機材は製造中止となつており、現在、全日空グループとしては、この機材以外に、丘珠空港を通航できる機材を所有していないこと、また、新しく機材を購入することとした場合、前回の機材更新時と同程度の約100億円の投資が必要となることなどから、丘珠空港

平成4年度以降、道と札幌市が丘珠空港のジェット化に向けた検討を進め、当時の運輸省に対して、その実現を数回に渡り要請したところ。しかしながら、平成8年度に国からのジェット化空港の必要性や周辺の市街化の状況、当時開発されたプロペラ機の性能などから、必ずしもジェット化の必要性はないという考え方が示され、道と札幌市は最終的にはジェット化は困難と判断し断念したところ。その後、100m延長や拡張など、空港の高質化を

北海道議会議員 かね国よしすけ 通信

図るための整備が進められてきたところ。

こうした経緯にある中、このたびの新千歳空港への集約化の検討という事態に至ったわけであるが、道といたしましては、これまで新千歳空港との役割分担のもと、丘珠空港が道内航空ネットワークの中核としての役割を果たしてきたことに鑑み、5月20日に国に対し、丘珠空港が引き続き、道内航空ネットワークの中核としての役割を果たすことができよう、国としても努力していただきたい旨を要請したところであり、今後においても、全日空との協議を進めながら、重ねて要請して参りたい。

路線の維持・確保のためには利用促進期成会のような組織が必要と考える。

航空路線の維持・確保を図っていくためには、空港所在地域の行政機関はもとより、商工関係や観光関係の団体などがこれまで以上に連携を深め、利用促進に向けた活動を積極的に展開していかねばならないものと考えている。丘珠空港においては、近年、空港ビル利用

者600万人達成記念事業として青森三沢空港とのチャーター便の運航など、利用促進のための取組が行われてきているところであるが、地域の関係団体が連携した取組については、必ずしも積極的に行われてこなかったものと考えている。道としては、今後、利用促進を目的とする組織の設置の検討について札幌市や関係の団体に働きかけていくとともに、札幌市や丘珠空港路線の就航先の各地域と連携しながら、丘珠空港の利用促進のための具体的な方策について早急に検討して参りたい。

今後、丘珠空港の路線を維持して高度利用を行うにあたり、地元の説明してきた事項を変更しなければならぬことも考えられるが、道としての所見はどうか。

空港機能の向上についてであります。道としては、平成8年度の丘珠空港のジェット化断念以降、道内航空ネットワークの拠点空港として活用するため、YS-11型機の後継プロペラ機の運航性能を考慮し、冬季間の安定就航のため

の滑走路の延長について、札幌市とともに検討を行い、また、札幌市においては、滑走路の延長整備を行うにあたっての空港周辺住民への説明会などを行ってきたところ。平成10年12月には、道と札幌市で、地域住民の方々に対し、

- ・滑走路延長は100メートルとし、全長を1500メートルとすること

- ・定期便の運航便数は、現在の生活環境を悪化させないことを基本とすること

- ・環境基準を超えない運航便数は、44便とすること

などの基本的な考え方をお示しし、住民の方々のご理解を得たことから、滑走路の延長など所要の整備が進められてきたところ。委員ご指摘のように、丘珠空港の機能向上のための空港整備や運用の見直しを行う場合には、地域住民への当時の説明内容を変更することとなり、改めて地域の理解を得る必要が生じることから、今後、札幌市とも十分に協議しながら、慎重に検討する必要があると考えている。

(以上、6月29日)